

§ 吉野川の改修事業

1 築 堤

1 - 1 吉野川下流（河口～岩津）の堤防

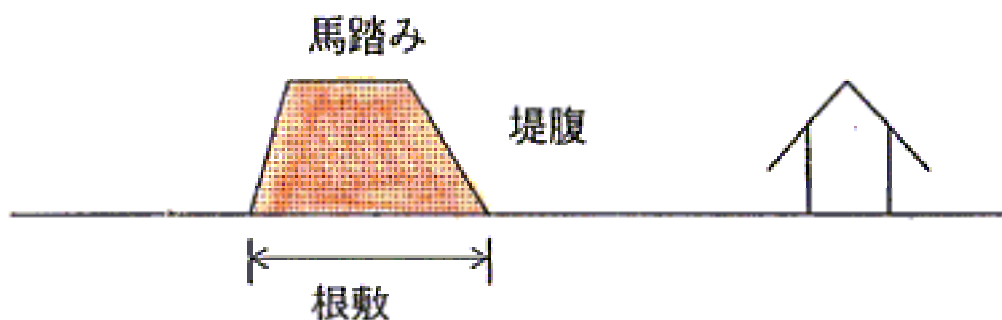
（1）藩政時代から明治初期の堤防

河床土を用いたかき寄せ堤の築造から始まりました。

集落を守るための小規模で不連続な堤防が築かれ、やがて逐次つながれて河川両岸の小規模な堤防を形成し連続堤防の原型が築られました。

明治初期までの築堤推定断面

明治初期（幕末～明治8年）



阿波町 井沢市堤

阿波町史によれば、当時の堤防は、敷幅9～15m、天端幅1.8～5.4m、高さ1.8～4.5m程度の小さな堤防であったようである。

吉野川絵図（天保11年 1840年）徳島県立図書館所蔵



吉野川中流域の岩津から第十堰までの24kmを描いた図（ゴシック囲み文字は編集上加筆したもの）



市場町大野島 六十間堤



上板町六条 六条堤

(2) 第一期改修の堤防

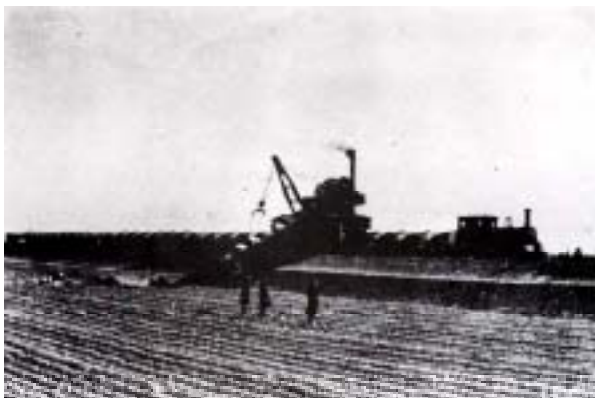
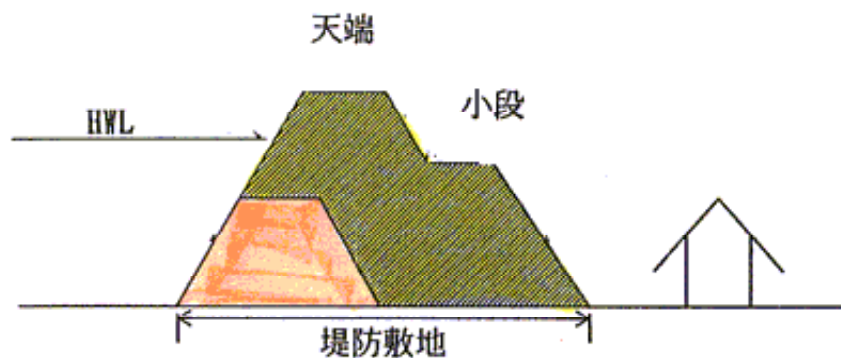
明治40年から昭和2年の20年間で現在の堤防の原型が築かれました。

第十より上流では、すでに形成されていた堤防を基に拡築等を行いました。

第十より下流では、別宮川を放水路として新たに堤防を築造し吉野川の本流となりました。

第一期改修の築堤断面

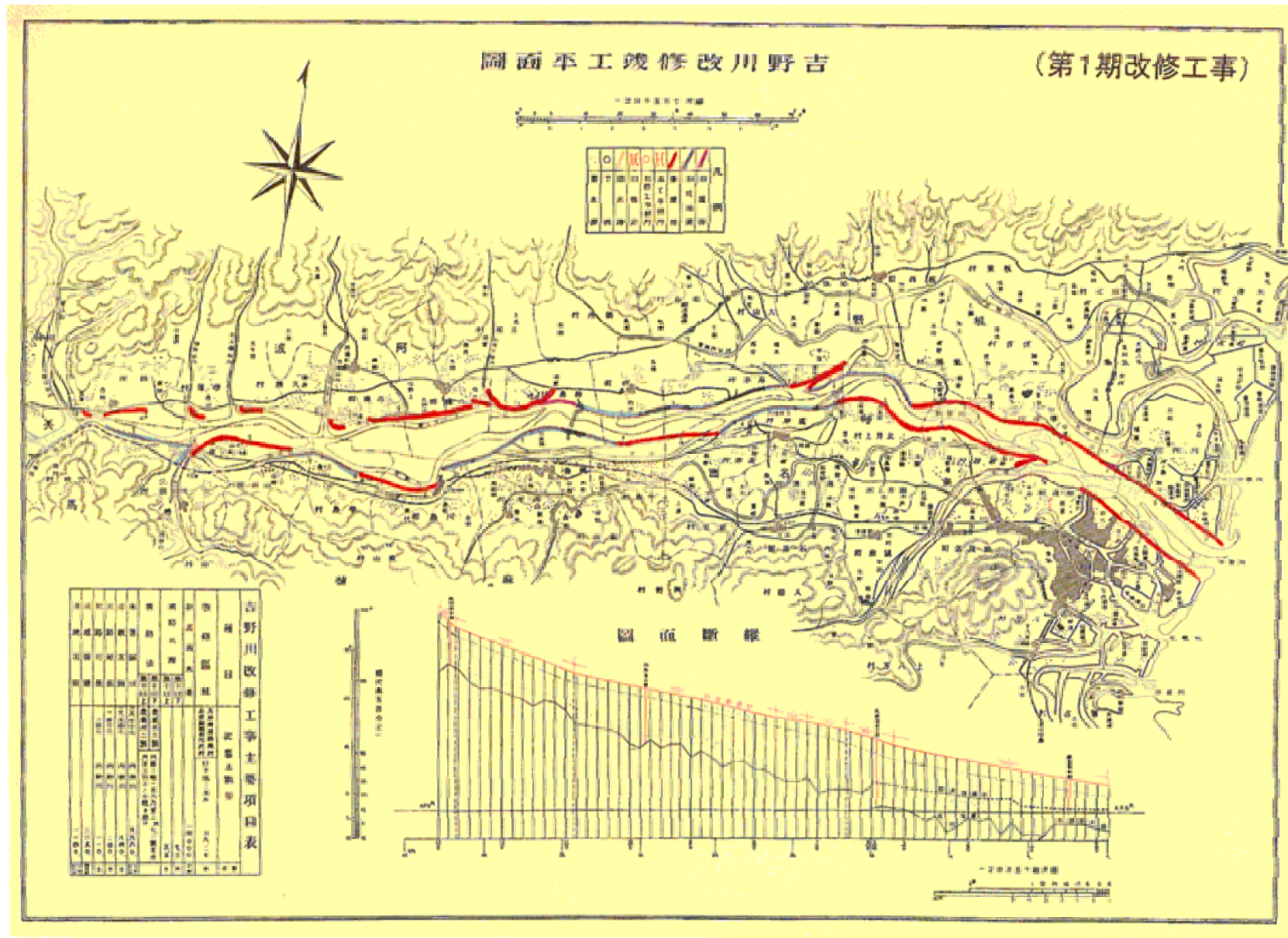
第一期改修（明治40年～昭和2年）



第一期改修時の築堤工事の様子

第十樋門の基礎工事の様子





第一期改修竣工平面圖

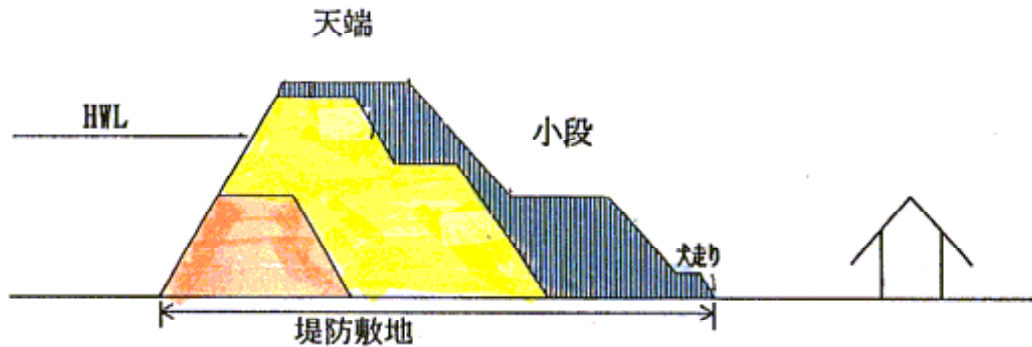
(3) 第2期改修以降の堤防

第1期改修で築造した既設堤防の拡築を実施しました。

第1期改修により築造された堤防は、河床の土砂を用いていたことや、堤防の下の基盤が旧河道である箇所が多く、漏水が各所で発生していたことや、昭和20年の南海地震により地盤が沈下したため、既設堤防の拡幅や嵩上げなどの補強を実施してきました。

第2期改修の築堤断面

第二期改修（戦後）



第2期改修後道路により断面拡幅される
現在

